



那覇市立教育研究所

研究所だより



那覇市金城3-5-3

Tel 917-3441 Fax 857-8681

naha-c@naha-c.nahaken-okn.ed.jp

所長 田中 浩三



標準学力調査 ～見えてきた課題～

所長 田中 浩三

今年度四月に市内中学校一・二学年を対象に標準学力調査が実施された。本調査の特徴は、市や実施校の学習状況や課題等を把握できるだけでなく、生徒一人一人に特化した分析データをもとに個々の学習状況等を把握し指導できるところにある。当研究所ではこれまで本調査の結果・分析をもとにその「活用研修会」や課題解決のための「授業改善研修会」を実施してきた。その中から見えてきた課題等を紹介する。

まず、下表のようにA問題（まさに基礎問題）の平均値において全国と差があまりにも大きいことが気になる。基礎問題は繰り返し学習（家庭学習、朝の励み等）を継続的に行うことによりその差は縮まるのではないだろうか。今後とも根気強く繰り返し学習の必要性を感じる。

	A問題	平均 %
中1. ①	$\frac{8}{10} + \frac{1}{2}$	那覇 54.3 全国 72.2
中1. ②	9と12の最小公倍数を求めよ。	那覇 66.2 全国 83.8
中2. ①	$\frac{3}{8} \times \frac{12}{7}$	那覇 68.6 全国 82.6
中2. ②	方程式を求めよ。 $4x - 14 = 6$	那覇 37.9 全国 56.1

次に、今回実施した中一の問題は小学校における、中二問題は中一における既習内容である。全国平均との差（中一・二、中二・一）を比較すると中一（四月時点）の方がやや大きい。小学校六年の「全国学力学習状況調査」における全国との差はかなり縮まってきているにも関わらず、本調査では小学校までの努力の跡が表れていない。小学校の最後（三月）まで着実に定着を図りつつ中学校へつないでいくことが大事ではないだろうか。

さらに、各学年のA問題の平均正答率を比較すると、B問題に課題が大きい。B問題に発展的な問題が多いことを考えると当然の結果と思えるが、学力向上を図る際の両者の関係性について佐藤孝氏（学習院大学教授）は、次のように述べている。

つまり、決してA問題のみでなく、A・B問題、またはB問題に力を入れていくことによって学力向上を図ることが大切なのである。
以上三点について学力向上の視点として意識して取り組んで頂けたら幸いである。

●9月30日(月)、半年間にわたり研究を重ねてきた第100期教育研究員の成果報告会及び修了式が開催されました。100期の節目に歴代所長や指導主事の先生方にもご列席頂き、多くの来賓の皆様が見守る中、当研究所所長から研究員は緊張した面持ちで修了証書を受け取りました。

第100期 教育研究員 成果報告会・修了式



下地 智子

これからも研究所の図書室を利用し、知識や見聞を深め教師としてさらに向上していけるよう頑張ります。今後も、幼稚園現場で、那覇市の子どもたちのために一生懸命がんばっていききたいと思います。（下地）

「手だてをもって実践する」という田中所長の言葉を忘れずに、今後も研究と研鑽を重ねて大きく成長できるよう頑張ります。（喜屋武）



喜屋武 直人

パソコンの研修、教科の講座に体験的な講座等私たちのために多くの講座や研修を組んで頂き大変有意義な研修でした。学校現場に戻りましても、研修・研究の成果を日々の授業に生かしていきたいと思っています。（大城）

研究に行き詰まったときにも互いに励まし合ったり、アドバイスをしあったりすることで何とか乗り越えることができました。3人との出会いに本当に感謝しています。（富山）



大城 真弓



富山 仁志



研究報告書はホームページに載せてありますので、ぜひご活用ください。

今月のお勧め

『 思考力・判断力・表現力が育つ
学校図書館活用の新しい授業 』
植松雅美 編著 学事出版 2010

「言語活動の充実」を目指し、読解力・活用力をつけるための学校図書館を利用した新しい授業を提案する。情報・図書を活用した授業の展開例を掲載。

【学事出版HPより】



◎ 成果報告会

第101期 教育研究員 入所式



10月3日(木)に第101期教育研究員の入所式が行われました。

池田 尚子	識名幼稚園	幼児教育
新里 和也	城西小学校	社会科
村吉 優子	高良小学校	国語科
山里 毅	首里中学校	数学科



池田 尚子



新里 和也

今回の研究では、幼児が自分の考えやイメージを表現する力を育むために、どのような援助や工夫を行っていけばよいか考えていきたいと思っています。(池田)

今回の研修では、調べ 考え 表現する力を育てるための、ノート指導の工夫・改善について、しっかりと学んでいきたいと思っています。(新里)

半年間の機会を生かし、多くの資料や文献を読み、しっかりとした理論のもとで研究実践できるよう自己研鑽に励みたいと思います。(村吉)

私はICT機器の効果的な活用方法に研修を深め、数学的な思考力・表現力を育む授業を研究したいと考えています。(山里)



村吉 優子



山里 毅



第11回 初任者研修

9月19日(木)、グループ研究①教科グループの代表授業と授業研究会が行われました。

天久小	村山 久志	教諭(国語)
小禄小	仲村 寛子	教諭(算数)
松島中	養田 真澄	教諭(数学)
小禄中	新垣 望	教諭(理科)
安岡中	上原三矢子	教諭(英語)
首里中	座安可那子	教諭(保健体育)
那覇中	儀間枝里奈	教諭(音楽)



教職10年経験者研修

9月から、1人2回の主事要請研究授業がスタートしました。



特別活動講演会

「学力向上、いじめ等の予防につながる学級経営」
— 特別活動における集団の教育力の活用 —

日時：9月20日(金) 14:45～
場所：自治会館 市町村プラザ大ホール
講師：杉田 洋氏
(文部科学省初等中等教育局視学官)



那覇市・浦添市内の小・中学校の180名余りの先生方が参加し「特別活動を通して行う学級・学校づくり」についての講話がありました。

○ 言語活動を通して、よりよい生活や人間関係を築くこと

○ 道徳的価値を明確にした集団活動の中で振り返りを重視し自己の生き方について考えを深めること

など、先生の実践も交えながらの講話がありました。

また、国として18年ぶりに特別活動の指導資料(リーフレット)が配布されました。リーフレットには、小学校の特別活動について、その教育的意義が示され、実際の授業で指導する際のポイントがわかりやすくまとめられています。

今後、各小学校で有効に活用され、効果的な特別活動が展開されることが期待されています。

